

## 児童自立支援施設の現状と矯正教育の効果研究

企画者	松浦直己（三重大学 教育学部）
司会者	松浦直己（三重大学 教育学部）
話題提供者	大原天青（国立武蔵野学院） 寺岡牧（国立武蔵野学院） 赤地芳輝（さいたま市立美園中学校分教室） 富田拓（国立きぬ川学院、国立武蔵野学院）
指定討論者	松浦直己（三重大学 教育学部）

KEY WORDS: 少年非行、被虐待、発達障害

### 【企画趣旨】

児童自立支援施設とは、犯罪などの不良行為をしたり、するおそれがある児童や、家庭環境等から生活指導を要する児童を入所または通所させ、必要な指導を行って自立を支援する児童福祉施設である。退所後の児童に対しても必要な相談や援助を行う。少年院とは異なり、児童福祉法上の支援を行う施設として位置づけられている。全国に 58 施設存在し、「夫婦小舎制」を採用している施設もある。「夫婦小舎制」とは、一組の夫婦が父母代わりとなり、実子とともに、家庭的で温かい雰囲気の中、7～8 人の子どもたちの育て直しを行う児童自立支援施設独特の形態である。疑似家庭的な形態とも言え、夫婦による役割分担を協力することにより、児童の生活に安定感を与え、精神面の発達・成長を促し、非行性を除去することを目指している。

これらの施設は夫婦である寮職員（寮長および寮母と呼ばれている）が運営する寮が数棟、児童らが通う学校（小学部と中学部）、グラウンドやプール、農園などが設置されている。

寮職員と学校教員は協力・連携しつつ児童らの生活指導や学習指導にあたっている。特筆すべきは、“発達課題のやり直し”あるは、“育てなおし”という視点である。受容的で安定的な環境の中で、職員らとの愛着関係を構築し、寮内の子どもたちとも友人関係を発展させていく。

このように夫婦小舎制は膨大な手間暇がかかるものの、矯正教育の効果は極めて高いと考えられている（相澤, 2014; 大原他, 2016）。一方で、主に 2 つの点から、非行化が進んだ児童らの矯正の困難さを指摘することができる。まず入所児童らの被虐待経験の深刻さである。松浦らは、児童自立支援施設や、少年院を対象に逆境的児童期体験（Adverse childhood experiences : ACEs）を調査したところ、身体的虐待やネグレクトなどの深刻な被虐待経験を有する児童は半数をはるかに上回った（Matsuura et al. 2015）。また家族内暴力や、家族の収監などを含めた不適切養育項目にも多く該当した。これらの結果は、入所児童の多くが何らかの養育上の問題を抱えていたことを示唆する。

次に発達障害の問題である。児童精神科医である富田（2011）は、施設内の児童らの、ADHD をはじめとした発達障害の有病率の高さについて指摘している。非行と発達障害の関連についてはたびたび指摘されているが、これらの施設では、不適切養育と子どもの資質との交絡による行動および学習の問題の悪化、という視点が欠かせない。

逆に言えば、多様な問題を抱えている子どもたちが多いからこそ、夫婦小舎制のような濃密で多面的、かつ重層的な生活療法が奏功するといえよう。

しかし残念なことに、このような施設の存在は一般的に

は広く周知されているとは言い難い。また、学術的に矯正教育効果を評価した研究はほとんど存在しない。このような状況を鑑み、本シンポジウムは以下の 2 点を目指して企画された。①児童自立支援施設とはどのような施設で、どのような教育を行っているのか、その役割や教育内容、課題などを報告する。②複数の評価尺度を使用し、子どもの認知、行動および情緒を評価した上で、矯正教育効果に関するエビデンスを報告する。

### 【話題提供者の趣旨】

国立武蔵野学院の心理療法士である大原氏から、施設の概要および矯正教育の効果について報告していただく。同じく武蔵野学院の寮長である寺岡氏からは、寮長の立場から施設の運営や現在の課題について報告いただく。また分教室（施設内に設置された学校）教諭の赤地氏から、児童らの学習や学校での生活について報告していただく。最後に、施設の医務課長である富田氏から、児童精神医学の立場から児童自立支援施設の教育効果や、夫婦小舎制が子どもたちに与える影響などについて報告していただく。

### 【指定討論者の趣旨】

多様かつ深刻な問題を抱えた児童らに対して、“育て直し”する作業が多大な困難を伴うことは明らかである。その場合、寮長、寮母、心理士、学校教員らは、それぞれの専門性を発揮しつつも、緊密な連携が要求されよう。中でも環境の構造化は最大の課題ではないだろうか。その点をどのように工夫し、連携し、問題点を解決しているのかに焦点化したい。

また矯正教育効果を評価するためには、施設入所時と退所時のアセスメントが重要となる。家庭環境や児の認知・行動・情緒および発達特性をどのように評価しているのかも極めて重要な問題である。

### （文献）

○大原天青・富田拓・松浦直己 他, 児童自立支援施設に入所する子どもの生活を捉える尺度の短縮版の作成と特徴および予後との関連, 児相青年精神医学会 57 回大会. 2016.

○富田拓, 児童自立支援施設の場合 (特集 児童虐待と社会的養護) 臨床心理学 11(5), (2011), 653-658

○富田拓, 少年非行と AD/HD : 児童自立支援施設での経験から. 児童青年精神医学とその近接領域 52(4), (2011), 401-405,

○Naomi Matsuura, et al., The characteristics of AD/HD symptoms, self-esteem, and aggression among serious juvenile offenders in Japan. Res Dev Disabil. 2010 31(6):1197-203

(MATSUURA Naomi, OHARA Takaharu, TERAOKA Tsukasa, AKACHI Yoshiteru, TOMITA Hiroshi)